しめ縄
SHIMENAWA PROJECT

しめ縄プロジェクト2024

しめ縄づくりから世界をつなぐ！

しめ縄プロジェクトとは？

お正月の意味を学び、国産の稲わらを使ってしめ縄づくりを楽しむ文化教育活動です！

目　的

お正月の理解を通じて自分たちの国に関心を持つ機会を創出し、日本の伝統を学び、継承できる教育体制をこの社会に構築することを目指しております。

概　要

当プロジェクトは、お正月の意味を学ぶ「お正月講座」と「しめ縄づくり」が体験できるワークショップを基本プログラムとしてこれを全国各地で開催しております。

お正月講座（約10～50分）

しめ縄作り（約50～70分）

プログラム全体（約60～120分）※参加人数・年齢によって変わります

TEAM EXPO 2025 いどもう。みらいに。“共創チャレンジ”

しめ縄プロジェクトは、大阪・関西万博の共創チャレンジ登録事業となり、現在、大阪観光局のパートナーとなっております。

一般社団法人国際教養振興協会について

なぜ、国際教養にドメスティックな文化活動必要なのか？

パレット上に様々な色彩が彩られる社会、これが国際社会。しかし、全ての色を混ぜ合わせると灰色になる、これがグローバリズムの怖さ。

本当の国際社会に必要なのは、外国語や海外事情の認識よりも、まず自分自身（出身国の文化や歴史）を語ることのできる教養力！

国が際立つ社会

代表理事　**東條英利**

- 神社文化評論家・神社情報ポータルサイト「神社人」代表
- 第40代内閣総理大臣東條英機直系曾孫

「日本人の証明」「神社ツーリズム」他、神社関連書籍の執筆・監修多数。

香港への駐在を機に、外国人から日本のことを尋ねられてもきちんと答えられない日本人が多いことに気づく。他者から信用されるためには、安易な同調ではなく、自分自身の存在や立場を明確に伝えられる教養が重要と考え、自国に関わる伝統・文化・歴史を学ぶ環境・機会づくりを目的とした国際教養振興協会を設立する。

CJPF　ICPAは内閣府クール・ジャパン官民連携プラットフォームの構成員です。

なぜ、今、しめ縄プロジェクトなのか？

1. 日本のお正月は日本全国各地で迎えられる国民的行事。

▶▶▶日本人にって共感性の高い身近なテーマ

2. お正月は本来、豊作の神・年神様を迎え、一年の健康を願う伝統的風習。

▶▶▶日本の伝統的価値観が凝縮された風習

3. 豊作の神を迎える習慣に、市販のしめ飾りが稲わらではなく雑草が代用される現状。

▶▶▶風習の目的が忘れられ形骸化する実状

お正月を取り巻く現状は、
日本人の伝統に対する理解低下の象徴！

お正月の国民的理解が進めば、日本の伝統は必ず復活する！

しめ縄プロジェクトのグランド・デザイン

ヒトと**文化**と**産業**が循環する三位一体の社会事業モデルの創造を目指して！

しめ縄プロジェクトの歩み

全国の神社をはじめ、小学校、地域コミュニティ、外資系企業など様々な場所で開催！

2023年度は単年で全国約4,000名の方が参加！

全国27都道府県で開催！

米国・メキシコでも開催！

全国10校以上の学校で開催！

全国30社以上の神社で開催！

まずは１万人が参加するプロジェクトへ！

しめ縄プロジェクトの開催実例

学校関係	東京：北区立王子小学校・北区立堀船小学校・北区立梅木小学校・北区立豊川小学校
	大阪：大阪市立聖賢小学校
	奈良：天理市立柳本小学校・天理市立櫟本小学校
	福岡：リンデンホール・スクール小学部
	岡山：岡山学芸館清秀中学校　他
	東京：北区立王子第三小学校・北区立八幡小学校　他

授業の一環としてプロジェクトを採用する公立小学校が増加！

神社関係	湯島天満宮	稲毛神社	浅草神社	上目黒氷川神社	香椎宮
	富山縣護国神社	芦屋神社	若宮八幡大神宮	石浦神社	早稲田神社
	藤島神社	富山縣護国神社	鴨居八幡神社	岡山神社	河尻神宮
	靖国神社	久伊豆神社	清見原神社	高千穂神社	金蛇水神社
	石上神宮	広島護国神社	住吉大社	宮地嶽神社	熱田神宮　他

30社以上の神社での開催・地域コミュニティの再生へ

その他	一般企業研修	特養施設	保育園事業研修	NPO事業者	米国(LA・SF)
	メキシコ	三菱UFJ銀行と児童擁護施設での開催　他			

国内のみならず海外でも開催・様々な社会・文化団体ともコラボレーション！

私たちのチャレンジ！

1 全国の学校でしめ縄プロジェクトを教育の一環として提供できる環境を目指します！

東京都北区では、地域住民参加型の小学校導入モデルを構築中で、2023年には北区だけで6校もの小学校が授業の一環として導入しており、2024年には既に13校からオファーを頂いております（５年生対象）。このほか、大阪や奈良、兵庫、岡山、福岡といった他地域での開催も増え、学校における文化教育導入の可能性を高めて参りたいと思います。

2 地元の有志が神社へしめ縄を奉納できる環境を目指します！

近年、各地の作り手が高齢化などで激減しているため、化学繊維のしめ縄導入が進む神社においても、当プロジェクトを推進することで、地域住民や崇敬者による交流機会の促進に役立て、地域社会の活性化を目指します。

3 海外の方に体験いただくことで日本の伝統に対する理解を深めて参ります！

2017年、2019年には米国ロサンゼルス、2023年には米国サンフランシスコ、そして、メキシコ国立自治大学（UNAM）を中心にメキシコ・シティ各地でも開催し、日本の伝統的価値観の理解増進に努めて参りました。同時に、海外の取り組みを動画にして国内の子供たちに見て頂くことで、海外の方を魅了する日本文化の力に魅力を感じてもらえるようその循環的な体制構築にも努めて参りました。現在は、訪日外国人旅行客向けのインバウンド事業の準備も進めており、国内外の文化的流通を高めることで、教育・地域活性に新たな付加価値を高めて参りたいと思います。

4 一般企業が日本の伝統文化を支援する社会を目指します！

かつてはこうした文化的な風習というものは一般企業によって支えられてきた部分があります。私たちとしてはそうした企業文化風土を新しい取り組みの中から育んで参りたいと思います。現在、外資系大手企業での取り組みも進展中。

補足１：しめ縄とは？

しめ縄は悪い気や霊の侵入を防ぐとされた太古から続く伝統的意匠となります。

その形状は、棒状・ひも状・丸型のものから動物の姿を象ったものまで、実にさまざまあり、その始まりは神話の時代より続きます。

素材は稲わらをより合わせて作り、神社の入り口や建物、特定の大木や巨石、家の玄関や神棚など神聖とされる場所に飾り付けることで悪い気や悪い霊の侵入を防ぐ結界のような役割があると考えられております。

日本ではお正月にはこのしめ縄に様々な飾り付けを施して、玄関に飾って新年を迎えます。

日本の神道文化と農業文化の象徴！

SHIMENAWA PROJECT